



浦和高等学校卒業生帰郷学校訪問



埼玉地方協力本部（本部長 山下1佐）は令和3年8月3日（火）埼玉県立浦和高等学校において帰郷学校訪問を実施した。

今回は、新型コロナウイルスの影響で、防衛大学校への志願を予定している生徒に代わり、進路指導の先生に対し防衛大学校の現役生及び担当広報官が、学校生活（学科教育・訓練、学生舎生活、部活動）の様子について説明を実施した。

先生からは、学校の魅力や陸海空の要員の決定時期などについて質問があり、現役生は一つ一つ明確かつ丁寧に答えるとともに、「防衛大学校における学生生活は毎日が充実していて、大変素晴らしい学校です。部活はバスケット部に所属し、仲間とともに汗を流し、朝から夕方までは優秀な教授のもと勉学に励んでいます。文武両道を推進している校風が、浦和高校と同じでその点は特に馴染みやよく感じています。」と話した。

対談終了後、校内を歩いている際に運動部の生徒達が偶然通りかかり、防大生の制服姿を見て、「かっこいい。」との声が聞かれた。制服で訪問した姿を在校生に見てもらったことができ、自衛隊をアピールすることが出来たとのことであった。

帰郷学校訪問は、成長した卒業生の姿を見もらうことで本人のみならず、広報官にとっても感慨深い体験であり、何よりも在校生に対して身近な存在である先輩が自衛隊に就職した姿を見せることが出来、この上ない募集広報に繋がると感じる瞬間である。

埼玉地方協力本部は今後も各種学校に対して、効果的な募集広報を実施していく。

決め手は広報官

自衛隊埼玉地方協力本部
入間地域事務所川越募集案内所（地域事務所長 村上2尉）は8月5日（木）、令和3年3月に入隊した細川2士の訪問を受けた。

担当広報官であった長2曹は、細川2士を温かく出迎えた。今回の訪問は現在、札幌駐屯地の北部方面情報隊で後期教育を受けている細川2士が受験時のお礼と、入隊後の近況報告を兼ねて伝える目的であった。

情報隊での教育の様子を、身振り手振りを交えながら伝える細川2士に、長2曹は目を細めながらうなずいていた。

当時、細川2士は、最後まで同じ公安系である警察と自衛官との間で進路先を迷っていたと正直に話してくれた。しかし、最終的に自衛官の道を選んだ要因は、長2曹の丁寧な対応だったと明かした。長2曹から説明を聞いた両親も、積極的に入隊を勧めてくれたそうだ。

長2曹は「本人は勿論ですが、ご両親に対しても丁寧な説明をすることを心掛けました。特に同じ子供を持つ親として、不安や懸念の払拭に務めました。入隊に対し、全ての対象者がご両親から応援してもらえるよう、丁寧な対応を引き続きしていきたい」と答えた。

埼玉地方協力本部は、今後も対象者は勿論、そのご家族などに対しても丁寧な対応を心掛けていくとしている。

